

二〇三三年一月六日

パトカーが駆け抜く仕事始めかな
初電話心配される齡となり
弾初に夫の拍手を賜りぬ

なつき
たか子
ひのと

二〇三三年一月二日

朝の日の眩しさへ置く雑煮かな
初茜視界展ける七合目
牧草のロール転がす北風

ひのと
むべ
愛正

二〇三三年一月五日

連鎖して大杉震ふ雪解かな
双六の折目に駒の浮ひてをり
げんこつを貰つて終はる初喧嘩

隆松
素秀
ひのと

二〇三三年一月一日

輪唱のごとくに峡の除夜の鐘
恙なく一行記す初日記

うつぎ
満天

二〇三三年一月四日

水鳥が押し分けてゆく薄氷
産みたてと掌に享く寒卵
さし交はす大樹の秀枝淑気満つ

豊実
かえる
むべ

毎日句会みのる選・二〇三三年一月八日

前掛けに手を拭ひつつ御慶受く
日常の二人に戻る四日かな
放棄田に農学部員鋤始

ひのと
せいじ
かかし

二〇三三年一月三日

屋号にて御慶を交わす宿場町

澄子